

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500903		
法人名	社会福祉法人 福島幸愛会		
事業所名	グループホーム陽光園		
所在地	北海道松前郡福島町字三岳160-16		
自己評価作成日	平成31年1月7日	評価結果市町村受理日	平成31年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0171500903-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日を笑顔で過ごしていただけるよう、大事な家族と思ってお世話しています。皆さんとても朗らかです。季節の食材を使い、嗜好に合わせた食事やおやつを食べてもらっています。ここが一番安心でき、居心地が良い所と思ってもらえる事を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福島町は道内の最南端に位置し、青函トンネルの北海道側の工事基地として活気があった頃の開発局職員宿舎の建物を町が購入し、14年前に地域の高齢者のニーズに合わせ「グループホーム陽光園」を設立している。運営者は、町内の社会福祉法人で特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ショートステイ、居宅介護支援事業所、生活支援ハウスなどの事業所を運営している。町の南方は津軽海峡に面し、するめいかの加工製品は高く評価されていたが、近年のいかの不漁により従業員の見受けられ職員不足の解消に期待される。利用者が地域でその人らしく安心して暮らせるよう行政と一体となり室料や諸経費の軽減に努め、職員は笑顔で利用者に接し、家庭的な雰囲気を出している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者がその人らしく暮らしていけるよう、事業所独自の理念を作り職員は周知している。また、ホーム内の見やすい数か所に掲示し、日々心に刻みながら介護している。	住み慣れた地域の中でゆったり、のんびり、楽しく、自分らしく暮らせる支援を中心とした法人理念と、利用者の暮らしとケアをきめ細やかに示した個別支援を職員間で共有し実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方とは日々の挨拶や、近隣の高齢者宅の草刈り、除雪の手伝いをしている。	ご近所とは夏は除草、冬は除雪を支援し、町内活動や人々の関わりを積極的にもちながら日常的に地域を支え、支えられる関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の家族を介護している方や入所を検討している方の相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会役員、役場職員、利用者家族、利用者をメンバーに開催している。行事、利用者の日常生活を中心に報告し質疑応答をし意見交換を行い、施設外の方の考え方を知る機会を得ている。	法人は年4回、系列の事業所が合同で会議を開催している。当事業所も現状を明らかにして意見を伺い、グループホームとしても年2回、行政、町内会、家族、利用者が参加して運営推進会議を実施し運営に反映させている。	町内唯一の高齢者福祉全般の責務を担っている法人は、系列事業所が合同で定期的に会議を実施して、そこで出された意見をサービスの向上に活かしているが、当事業所としての議事録を整理されることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小さな町で、役場職員ともほとんど顔見知りの関係で、話しやすく常に行き来しており、運営等についても話し合いをする機会が多い。	事業所の土地、建物は町役場と賃貸借契約を締結しているため、室料、食費を含め諸経費に至るまで安価に抑えて利用者に提供しており、町担当者とは常に現場の状況を伝えて協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で資料を使い理解を深め、実際のケアを振り返りその都度身体拘束に当たらないか確認している。防犯上、夜間(19:00～6:00)は鍵をかけているが、日中は開け、出入り自由になっている。(センサーで出入りが分かるようにしている)	マニュアルを整備し、管理者を中心に身体拘束廃止とその弊害を内部勉強会の中で職員と認識を共有し、利用者の安全を確保しながら自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、ミーティングで取り上げ勉強したり、実際のケアを振り返り虐待に当たらないか職員同士で意見交換し身体的・精神的虐待を排除している。		

グループホーム 陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で取り上げ、職員全員で理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結の際は、分かりやすい言葉を使い説明し、利用者・家族の疑問や不安を解消してから行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に意見や不満を言える関係を作っており、言われた事は検討し改善している。玄関に「苦情・意見・要望承りボックス」を設置し、意見や苦情を受けた時は運営者に報告し、職員全員で改善に取り組んでいる。	家族は毎月の料金の支払いに必ず訪れているので、現状報告と要望や意見を伺う機会も多くあり、職員との交流も積極的に気軽に意見交換が行われ、表出された課題は検討し改善に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝のミーティング等で意見や提案を受けられる機会を設け、出された意見や提案は出来るだけ運営に反映させている。	職員からの提案や課題はその都度話し合ったり、申し送り時やミーティングの時に解決に向けて話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態を把握し必要に応じ相談や助言を行っている。また、資格取得の希望には出来るだけの支援をしている。健康で働けるよう定期的に健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる外部研修には勤務として参加させ、その研修内容を内部研修として利用している。本人から希望があった時も出来るだけ参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道GH連絡協議会に入会しており、研修会や交流会に参加している。また、近隣の施設とは必要に応じ電話をかけたり相互に訪問しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では話しやすい雰囲気を作り、本人の生活歴、不安な事、大切にしている事等を出来るだけ話して頂きながら理解を深めている。施設見学、必要に応じ体験入所をしてもらう事もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に心配な事、望んでいる事等を話して頂き、当施設の普段の様子・どんな対応が出来るか話している。電話での相談をいつでも受ける事もお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の希望や生活状況を聞き、当施設でのサービス内容を伝え他のサービスが必要であれば提案し選択して頂くよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で職員が利用者に教えてもらったり、手伝ってもらう事も多く、お互い助け合いながら暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪した時には利用者の近況を話し、ホームでの様子を見て頂いている。また、家族から聞いた入所前の話を介護に生かす事もある。お互いに協力しあい利用者がより良く過ごせるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知り合いの方が訪問された際には、気兼ねなく過ごせる雰囲気を作り過ぎて頂いたり面会が少ない方や外出がままならない方には相手から電話を掛けてもらったり、こちらから掛けている。	訪れる方は知人、友人、親戚関係などで顔馴染みの方が多く、利用者に気軽に声がけをしている。職員は関係が継続できるよう雰囲気づくりを心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話が弾んでいる時は見守り、話に参加していない人にも声をかけ和やかな時間を過ごせるよう気配りしている。利用者同士の人間関係を把握しトラブルを未然に防げるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約や退去された利用者及び家族にはお会いすれば挨拶をし、年賀状を送付しているが、それ以上の交流はしていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者としてじっくりと向き合い、思いや希望を引き出している。困難な時は表情や態度を観察し出来るだけ本人の思いに近づけるようにしている。	職員は、利用者が地域の中でその人らしく暮らせるために寄り添いながら、本人の行動や表情を観察し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から聞いた生活歴、一日の過ごし方、趣味等をアセスメント表に記入し職員全員が把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録し、職員全員が状況を把握している。変化があればその都度口頭や連絡ノートも使い周知出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心にモニタリングを行い、各職員と日頃の様子を話し合い利用者・家族の希望を出来るだけ取り入れながら作成している。	家族の面会時に要望を伺い、日々の記録と職員からの課題の有無を話し合いながら本人がよりよく暮らせるよう検討し、現状に合わせた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に、その日の行動や変化、ケア後の気づきを記録し大きな変化は連絡帳にも記載し、その記録を職員全員が確認・共有しケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ通院・外出・外泊・ドライブ・家族送迎等必要に応じ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内に町民有志のサークルの写真を掲示しているが他は特に協働はしていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に引き続き診てもらっている。入院や他医院への受診についてはかかりつけ医から紹介してもらっている。異変があった場合はすぐに連絡し指示を受けている。	かかりつけ医は、近くの系列事業所の往診時に訪れている。遠方受診は家族の対応であるが、状況により2名の職員が代行する事もあり、夜間体制は近くの特養と連携して支援に取り組んでいる。	

グループホーム 陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員がいないので、受診する程ではないが変化が見られ気になる時はかかりつけ医院の看護師に相談し助言や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添い必要な情報を提供している。入院中は職員も出来る限りお見舞いに行き、本人の様子を見たり病院スタッフから話を聞き、現状を把握している。洗濯の支援をする事もある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、その時点で家族を交えた話し合いを行い、出来るだけ意向に沿うようにしてうが、ホームに看護師常駐しておらず、町内に入院出来る病院もないので、出来ることの限界を感じる事が多い。	契約時に事業所での暮らしが困難と見受けられる時には系列の特養への移行もある事を家族に説明し、同意を得ている。管理者と職員は、マニュアルを参考に勉強会を実施し、家族の意向を再確認して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の応急処置法のマニュアルがあり、職員周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員会議で避難方法を確認し、昼間と夜間に避難訓練を行った。	年2回、日中と夜間想定 of 訓練を行い、終了後は評価を話し合っている。備蓄は3日分の食品や水を確保し、停電時に備え発電機、暖房器具、簡易トイレなどが用意されており、耐震基準も満たしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの方の生い立ち、価値観、考え方を考慮し自尊心やプライバシーを損ねないよう言葉を選び対応している。	車椅子対応のトイレドアにカーテンを取り付け、職員は入浴時や排泄時に伴う羞恥心の配慮と守秘義務の徹底を図り、利用者のプライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食べ物の希望、観たいテレビ、何をしたいのか、どこへ行きたいのか等あらゆる場面で選択の機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度決まっているが、状況に合わせてそれぞれの方の意思を尊重し自分のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは本人の意思で行ってもらい、気候や体調に合わせて助言している。散髪は訪問サービスを利用している。		

グループホーム 陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの嗜好を把握し、好みの物や季節の食材をメニューに取り入れている。	献立は管理者が作成して盛り付けに工夫をし、年中行事に合わせたメニューと旬の食材で季節を味わい、誕生日は本人の嗜好で提供し、テーブルの席替えでトラブルを避けるなど楽しい食事に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、摂取量が少ない時は好みの物や代用品を用意し食べて頂いている。水分量は一日の目安を決め記録し、色々な飲み物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に合わせ、毎食後、声掛け、見守り。介助で行っている。義歯の洗浄、衛生管理も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録簿をつけ、個々の排泄パターンを把握し声を掛けたりトイレへ誘導し失禁を減らすようにしている。排泄時には羞恥心に配慮し支援している。	職員は排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を促し、利用者の要望で夜間のポータブルトイレやおむつの使用もあるが、安眠を優先した支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便出来るよう、繊維質の物、野菜、果物、乳製品をメニューに多く取り入れている。こまめに水分補給をして頂き、軽い運動を生活の中に組み込んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は月～土に沸かし入浴してもらっている。入浴前にバイタル測定を行い、異常がない事を確認している。また、入浴を拒否する方には、時間を置いたり対応する職員を替え、気分良く入浴して頂けるようその都度柔軟に対応している。	浴室は広く清潔感があり、大きな窓から陽が差し込みピンク色のタイルが張られた壁と大型の浴槽が備え付けられ、手すりやシャワーも完備している。温度差に注意をしながら週2回の入浴は、会話や歌で楽しくゆったりと入れるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居眠りしたり疲れた様子の時は、昼寝をして頂いている。夜は居室を好みの明るさにし、大きな音を立てないように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の情報ファイルに処方箋を入れ確認している。変更があった際は連絡ノートを使い把握している。飲み忘れないよう各自の薬をお薬カレンダーに入れ、服用時には飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付け、縫い物、掃除等得意な事で力を発揮出来るよう支援している。おやつ時の飲み物は好みの物を選んで頂いている。		

グループホーム 陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は庭や玄関前のベンチで過ごす方もいる。散歩、買い物、ドライブは一人ひとりの希望に応じ支援しているが頻度は少ない。	天気のよい日には事業所周辺を散歩したり、地域のお祭りの見学や駐車場で外気浴をするなど、本人の状態、習慣、有する力、希望などその時の状況に応じて個別に外出を楽しめるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により家族と相談し小遣い銭を所持されている方もいるが使い機会はほとんどない。それぞれの能力に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で掛けられない方には職員が代行し家族と話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい居間にテーブル、ソファ、観葉植物を置き、写真や絵を貼り落ち着いた空間にしている。また、季節や行事にちなんだ飾りつけをしている。	開発局職員宿舎を改装した建物で、厨房の大型の冷蔵庫や収納箇所が至る所に備え付けられ、食膳受け渡しが対面式に作られて食堂との繋がりが便利である。陽当りのよい居間のリクライニングができる大型のソファで利用者は寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置き一休み出来るようにしている。また、居間と食堂が離れていて、それぞれが好きな場所で過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具、写真、思い出の品等を持ち込んで頂き飾りつけ、好みの居室にしてもらっている。観葉植物を置いている方もいる。	居室は洗面台と大型のクローゼットが備え付けられ、ベッドの上の収納可能な棚にぬいぐるみや造花を置き、自作の手芸品や家族の写真を壁に飾るなどそれぞれに個性のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる所に手すりを設置し食食用椅子は高さの調節出来る物を用意している。居室には表札、浴室・トイレには大きな字で書いた名札を掲示している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 陽光園

作成日：平成 31年 2月 19日

市町村受理日：平成 31年 2月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催回数が少ない。	開催回数を増やす。	堅苦しい議題だけでなく、普段の生活ぶりを見て頂く機会として捉え、家族も気軽に参加出来るような会議を目指す。家族も参加出来るような行事を検討し、会議へ繋げる。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。